

(様式第3号)

令和4年11月25日

登米市議会議長 関 孝 殿

会派 大地の会
代表 佐々木 幸一

調 査 報 告 書

調査の概要は次の通りであります。

1. 調査目的

- ①本市が抱えている課題（農業戦略、少子化対策）について、今後の方向性について情報交換を通して、意見交換をするために事務所を訪問する。
- ②首都圏の食品関連事業者（ホテルなど）における登米市産の食材の取り扱いの現状と課題を調査し、なお一層の産地の魅力と情報発信を探るために調査する。
- ③コロナ禍に於いて、若い世代のふるさと回帰、地方移住の傾向が増しているといわれる。本市の更なる移住、定住策の充実を図るために調査する。
- ④本市と連携協定を結んでいるソフトバンク本社でのデジタル最先端技術を体験して、社会、行政のDX（トランスフォーメーション）推進の方向性を探る。

2. 調査先

- ①衆議院第2議員会館（小野寺五典事務所）
- ②横浜ベイホテル東急
- ③ふるさと回帰センター（有楽町交通会館8F）
- ④ソフトバンク本社（東京都港区海岸1丁目竹芝）

3. 調査の経過と結果と並びに所感

別紙添付

4. 添付書類

調査先の説明資料

5. 調査者氏名

4名 佐々木幸一、武田節夫、佐藤千賀子、中澤宏



◆調査報告書「小野寺五典事務所での意見交換」

1. 日 時 令和4年11月16日（水） 午後1時30分～

2. 場 所 衆議院第2議員会館（小野寺五典事務所）

3. 対 応 農林水産省 農産局

農産政策部 企画課（水田農業対策室） 課長補佐 村松 直也 氏

4. 所 見

世界情勢の変化に伴う燃料・肥料価格の高騰により、本市の稲作農家の間において、「来年度は、思うように購入できないのでは」との情報が飛びかかっており、不安であったが、「一国に頼るのではなく、他の国にも働きかけており、確保できる見込みである」とのことで安心した。

価格高騰対策として、高騰分の7割を国が支援するとのことであったが、米価が上がらない今日においては、まだまだ不十分と感じた。

また、飼料用米、転作作物が増えたことによる米の需要増加のため、米価が少し上がる状況のようであるが、人件費、資材等が高騰している中において、稲作農家の経営は依然として厳しい状況にある。経営努力にも限度があることから、国の施策として安定した農業経営できるよう更なる対策を望むものである。

稲作農家同様に、畜産農家も経営不振に陥っている。長引けば長引くほど、規模縮小や経営破綻を余儀なくされる状況となる。当然ながら、大規模であればあるほど、リスクも高まる。

国の支援策として、配合飼料20kg当たり135円の補償金を交付するとのことであった。

そして、政府としても自給率向上（25%から34%）を図るようである。

どうもろこし生産に係る圃場のモデル事業として、大崎市が取り組んでいるとのことであった。

本市においても、自給率向上に向けて取りくむ姿勢が必要不可欠と考える。

◆調査報告書「横浜ベイホテル東急」

1. 日 時 令和4年11月16日(水) 午後5時～
2. 場 所 横浜ベイホテル東急(横浜市西区みなとみらい2-3-7)
3. 対 応 副総支配人 [REDACTED] 氏
マーケティング担当支配人 [REDACTED] 氏
総料理長 [REDACTED] 氏
カフェ・トスカ シェフ「食材王国みやぎ大使」 [REDACTED] 氏

4. 経 緯

宮城県食材の美味しさに魅せられ、2010年よりスタートした「食材王国みやぎ」をテーマとしたフェア。登米市からは、伊達の純粋赤豚、環境保全米のひとめぼれなどが使われており、登米市食材利用促進販路拡大事業の内容を検証する。

5. 所 見

ホテルは、みなとみらいの構内に位置し、大観覧車の見える市街の中であり、交通の便利な場所に位置している。フェア会場の料理の前には、登米市ののぼり旗とともに、「カフェ・トスカ」のシェフ長妻信人氏のコメントとして、「宮城では沢山の食材との出会いに恵まれ、生産者の皆様への感謝の気持ちを胸に“おいしい宮城をお届けします”」と添えられていた。

ほかにも、料理に使われている宮城県内食材のそれぞれの産地が「食材探しの旅 IN 宮城の地図」として、パンフレットに掲載されていた。

登米市からは、伊達の純粋赤豚を取り扱う迫町新田の伊豆沼農産、ひとめぼれ生産者の南方町の大久保氏が紹介されており、それぞれの特徴が添えられていた。

伊豆沼農産は、自然豊かな土地で「農業を食業に変える」をコンセプトに「地域6次産業化」の構築をしている。大久保氏は、農薬などを減らすため、合鴨農法で育てられた環境保全米など、自然豊かな土地で安全安心なお米作りに挑戦している。

料理はきれいに盛り付けられ、普段食べているキャベツ、大根、ニンジン、ウインナーをコンソメで味付けしたポトフが美味しく、思わずお替りした。

◆調査報告書 「ふるさと回帰センター」

1. 日 時 令和4年11月17日(木) 午前10時～午前11時30分

2. 場 所 東京都千代田区有楽町 交通会館8F

3. 講 師 事務局長 [REDACTED] 氏、宮城県担当相談員 [REDACTED] 氏

4. 調査概要

①活動内容

- ・移住希望者向けの情報発信と自治体向けのノウハウを提供

②データで見る移住希望者の動向

- ・当初は団塊世代の相談が中心だったが、若い人の相談が増えてきた。
- ・相談者の60%がIターン、30%がUターンである。
- ・移住先選択の条件の上位は、就労の場、自然環境、住居である。
- ・希望する地域は地方都市、農村の順となっている。
- ・セミナー参加者、面談者は本気度の高い人が増えた。

5. 所 見

・移住が認知されてきたという印象を強く感じる。それは本気度の高い移住者の増加が示している。

・移住を人口減少対策として考えるのではなく、「外部の目、視点、感性で地域に活力を呼び戻すもの」としてとらえたほうが良い。

・登米市は、団体会員となっているので、センターの情報、ノウハウを活用して取り組んでいることは評価するものだが、宮城県の取り組みがもう一息足りないと同った。宮城県は2段階移住が多いそうで、初めに仙台圏にそれから周辺自治体に移住するケースが多いとのことであった。県の更なる取組と移住先選択の上位、就労と住居に係る環境整備を更に進めるべきである。

特に就労支援に当たっては、ハローワークだけでなく商工会などとも連携し、受け入れ方法の検討を進めることも有効であるし、テレワーク移住支援制度の活用も進めるべきである。

◆調査報告書「ソフトバンク（株）竹芝本社」

1. 日 時 令和4年11月17日（木） 午後1時～午後3時30分
2. 場 所 東京ポートシティ竹芝オフィスタワー18階（ソフトバンク本社）
3. 対 応 [REDACTED] 氏（エグゼクティブ ブリーフィングセンター長）
[REDACTED] 氏（東北・四国エリア担当部長）

4. 体験内容

- ① 最新テクノロジーのロボット
- ② 成層圏に浮ぶ基地局の模型
- ③ スマートビル（内外のデータを活用した情報の可視化と最適化されたビル管理）
- ④ RTK 技術による高精度測位システム
- ⑤ 地域での取り組みの事例（観光への活用、運送実証、自動運転など）

5. 所 見

今般、ソフトバンク本社のあるビル内にオープンしたエグゼクティブ ブリーフィングセンターを視察した。そこは、JR浜松町駅から東京タワーを背に竹芝ふ頭公園に向かって徒歩4分の高層階インテリジェントビルだった。窓の正面に東京タワー、下を覗けば浜離宮庭園が広がる素晴らしい立地にある。

この施設はショールームではなく、お客様とのコミュニティの大切さを主眼に置いた相談、創造、未来の道筋を共に考え、ともに実現するオフィスとなっている。よって、一方的に提案・提示するのではなく、最新のデジタル技術や事例の紹介など事業の道筋を具体的にイメージできるよう様々な設備や仕掛けが用意されており、体験・体感を通じ未来のビジョンや戦略を共有し合い、次の技術、次のアイデアにつなげているとのことであった。

本市もICT化の推進を掲げているが、庁舎や学校などすべての事業所において「こうあったらいいな」を職員とともに創り上げていく価値を大切にしてほしい。

また、発想を生むための環境、勉強も必要であることから、ソフトバンクとの包括的協力の関係を上手に活かし、スマートシティ登米市を「しなやか」に、そして「たおやか」に実現されたい。